

# 「化石」投稿規定

(1988年1月27日制定)

(1991年編集部移動に伴い一部改訂)

(1999年1月28日同上), (2002年1月25日改訂)

(2006年6月22日部分改訂), (2010年1月28日部分改訂)

(2013年1月24日部分改訂), (2014年1月23日部分改訂)

(2014年6月26日部分改訂), (2015年1月29日部分改訂)

(2018年2月1日部分改訂)

## 1. 原稿の種類

邦文で書かれた古生物学に関する内容で、投稿時においてその主要部分が未公表であり、他誌に投稿中または審査中でないものとする。原稿は内容の違いによって以下の種類に区分される。

- 論説: オリジナルな研究論文。
- 総説: ある分野の研究内容や学説等を総括・評論したもの。
- 解説: 技術, 手法, 語句, トピックスなどについての紹介。
- 口絵: 古生物学に関する標本や産地などの未公表カラー写真とその解説。
- 討論: 「化石」に掲載された論説および総説についての学術的な討論。
- 記事: (1) 書評. 国内外で発行される古生物学に関する新刊書の内容紹介。  
(2) 学会・会議報告. 国内外の関連学会, シンポジウム, ワークショップなどの参加・開催報告。  
(3) ニュース. 古生物学に関するシンポジウムやワークショップの開催予告など。

## 2. 投稿手続きと審査

- 投稿原稿には、必要事項を記入した所定様式の投稿原稿整理カード(コピーして使用して下さい)を添える。
- 投稿原稿(図・表を含む)は、電子ファイルまたは紙媒体のいずれかで提出する。電子投稿の場合は、電子メールの添付書類として下記送付先に投稿カードとともに送信するか、ファイルが大きい場合には記録媒体に焼いて郵送する。紙媒体で投稿する場合は、コピー(論説と総説は3部、これら以外は1部)のみを提出する。ただし、コピーでは不鮮明となり審査に支障が生じることが予想される写真原稿の場合には、オリジナルの写真も提出する。紙投稿の場合、カラー印刷を希望する原稿は、カラーコピーを提出すること。郵送の場合には、封筒表に「原稿在中」と明記し配達記録の残る郵便とすること。
- 原稿の送付先  
図・表を含む完全な原稿と所定の投稿カードを「化石」編集委員長宛に直接送付する。
- 論説と総説の原稿は、編集委員会が適任と判断した2名の査読者によって審査を受ける。査読者の審査内容を編集委員会は検討し、著者に修正を求められることがある。解説および口絵の原稿の取り扱いもこれに準ずる。なお、修正を求めた原稿が発送日から3ヶ月を過ぎて返送された場合には、原則として新規受付原稿として取り扱う。
- 海外で行われた学術報告も記事原稿として扱う。そのため、ポイントが落とされて印刷される。また、写真は全て1カラムの幅(一段の幅)で印刷する。記事原稿の写真や図は、数枚に留めるようにすること。
- 編集委員会から投稿原稿受理の通知があった場合、文章の原稿が入力されている電子ファイルを直ちに提出する。その際、使用したソフト名を明記し、さらに同じ原稿をテキスト形式でも保存すること。図・表はオリジナルを提出すること。電子ファイルに関しては、編集委員会の指示に従うこと。
- 修正を求めた原稿が編集委員会から著者に返送された後、同じ原稿を他誌に投稿する事態が生じた場合には、編集委員会宛に投稿取り下げを文書で通知すること。また、著者への返却後6ヶ月を過ぎても著者から何等通知のないものは、投稿を取り下げたものと判断する。

## 3. 投稿原稿の構成ならびに文章と文体

- 原稿の長さは刷り上がり14ページまでとする。これを越える部分についての印刷費用は、著者の負担とする。ただし、原則として刷り上がりの長さは最大で16ページとする。口絵は原則として刷り上がり2ページとする。
- 投稿原稿の第1ページ目には、表題、著者名、著者の所属機関名(または連絡先)の電話番号、ファックス番号、電子メールアドレスを記す。本文は第2ページ目から始める。原稿には、英語の表題と著者名および所属(または連絡先)のローマ字書きを添える。論説、総説、口絵の原稿には、5~6文字からなる英語キーワードまたはキーワードを添える。
- 論説と総説には英語の要旨(abstract)をつける。英語要旨の長さは原則300語以内とする。なお、英語要旨は、著者の責任で英語を母語とする人、または英語に堪能な人の校閲を受ける。英語要旨原稿は本文とは分けて用意すること。
- 口絵は写真とその説明文のみから構成されることを原則とするが、写真の理解に必要な場合には図を入れても良い。文献は2つ以内を原則とする。原則として説明文は400字以内、キャプションはそれぞれ150字以内とする。
- 文は「である体」とし、現代かなづかいを用いる。漢字は当用漢字を用いるが、固有名詞や学会で用いられている慣用語はこの限りではない。
- 句読点は、. . .を用いる。
- 数量を表す数字はアラビア数字とする。数学的表現において変数として用いる文字については、スカラー量はイタリック体で、ベクトルや行列は太字のイタリック体であらわす。
- 固有名詞で読み誤るおそれがある場合にはルビ(ふりがな)をつける。

## 4. 投稿原稿の書き方

- 原則としてワードプロセッサを使用し、A4判用紙に印字する。印字サイズは12ポイント、1ページ25字/行×25行とする。行間および周囲には書き込みができる十分な余白を設けること。原稿にはページ番号を付すこと。手書き原稿の場合には、400字詰め横書き原稿用紙を使用すること。ワードプロセッサを使用せずに英語要旨を作成する場合は、タイプライトするか、手書きの場合には活字体とし、1ますに2字の見当で書くこと。
- キャプションは日本語のみ、または、英語併記で書くこと。
- 句読点, 引用符, その他の記号も1字として扱う。
- 生物および古生物の学名などイタリックで表記するものは、イタリック出力を行うか、または下線を引いて指定する(例: *Nipponites* または Nipponites)。)

- ゴシック字体およびアルファベットのボード字体は、太字出力するか波線で指定する(例: はじめに または はじめに)。)
- 原稿の右側欄外に図・表を入れる位置を矢印と番号で指定する(例: ←図1)。
- 見出しの付け方は以下に従う。
  - 第一項目: ゴシック体にして中央に配置。
  - 第二項目: 左寄せでゴシック体にする。
  - 第三項目: 番号でつづけるが、ゴシック体にもイタリックにもしない。左寄せ。
  - 第四項目: 英文字小文字でつづけるが、ゴシックにもイタリックにもしない。左寄せ。(例)

## はじめに

### 浮遊性有孔虫

#### 1. 化石層序

##### a. 群集組成

- 図のキャプションに英文をつける場合は、FigureではなくFigを使用する。
- 3名以上の著者がある論文の本文やキャプションへの引用は、邦文論文の場合は、「横山ほか, 2003」とし、欧文論文の場合は「*Yokoyama et al., 2003*」とし[et al.]は斜体とする。

## 5. 文献

- 文中における文献の引用は、発表年代順に並べる。
- 引用文献は、文献として本文末に一括し、著者名のアルファベット順、同一著者の論文は、単著論文を年代順に、続けて第2著者のアルファベット順とし、同一組み合わせの著者の場合は年代順とする。雑誌名は省略せず完記する。欧文雑誌名はイタリック指定(4-dを参照)をすること。雑誌の号数は省略し、巻とページのみとする。巻数は太字(ボード字体)とする(4-eを参照)。ただし、巻数の表記が無く号数のみの雑誌の場合には、号数を()付きで表記する。図・表の数は省略する。体裁は以下の例を参照のこと。

(例)

Braisier, M. D., 1980. *Microfossils*. (または Microfossils.) 193p., George Allen and Unwin, London.

Carter, J. G., 1990. Shell microstructural data for the Bivalvia. Part V. Order Pectinoidea. In Carter, J. G., ed., *Skeletal Biomineralization: Patterns, Processes and Evolutionary Trends*, 363-389. Van Nostrand, New York. (または Carter, J. G., 1990. Shell microstructural data for the Bivalvia. Part V. Order Pectinoidea. In Carter, J. G., ed., Skeletal Biomineralization: Patterns, Processes and Evolutionary Trends, 363-389. Van Nostrand, New York.)

Griggs, G. B., Carey, A. G. Jr. and Kulm, L. D., 1969. Deep-sea sedimentation and sediment-fauna interaction in Cascadia Channel and on Cascadia Abyssal Plain. *Deep-Sea Research*, **16**, 157-170. (または Deep-Sea Research, **16**)

半沢正四郎, 1963. 大型有孔虫について. 地質学雑誌, **69**(または 69), 298-302.

畑井小寅・小林貞一, 1963. 腕足動物. 小林ほか, 古生物学, 上巻, 103-126. 朝倉書店.

藤岡一男, 1963. 阿仁合型植物群と台島型植物群. 化石, (5), 39-50.

付記: 「化石」誌を欧文で引用する際には、次のように引用することとする。

Fossils (Palaeontological Society of Japan) No. 00.

## 6. 図・表に関する注意

- 本文中にいれる線書きの挿図および写真を図(Fig.), 記号・文字・横に引かれた罫線のみからなるものを表(Table)と呼ぶ。これまで図版として扱ってきた写真は、通しページを付して図として扱う。
- 図と表の原稿は、1図、1表ごとに別の用紙(A4サイズ)に書くこと。図・表は印刷時の縮小を十分考慮して作成すること。小さいものはA4サイズの台紙に貼ること。
- 図と表の原稿には、著者名、番号を記入し、印刷時と同一のサイズ(縮尺100%)で作成すること。
- 図と表は、横81mm(1コラム幅)もしくは172mm(2コラム幅)以内とする。ただし、図・表とキャプションは同一ページの印刷面(縦243mm)に収まるようにすること。
- 図の内容の大きさを示す場合には、縮尺(スケール)を図中に書くこと。
- 電子ファイルでの投稿時には、図・表は原図から書き出された圧縮したファイル形式(PNGまたはJPEGなど)で原稿中に添付し、文章とともに単一のファイルとすること。また、ファイルサイズが10Mbを超えないように調整すること。
- 編集委員会から投稿原稿受理の通知があった場合、図・表のオリジナルの電子ファイルを直ちに提出する。図・表はEPS(文字はアウトライン化する)またはTIFF(カラー, グレースケール共にラスター画像の場合の印刷時解像度は400dpi~600dpi(1コラム幅の場合は横1276~1913ピクセル, 2コラム幅の場合は横2709~4063ピクセル), モノクロ2階調の線画をラスター画像にする場合の印刷時解像度は1200dpi(1コラム幅の場合は横3827ピクセル, 2コラム幅の場合は横8126ピクセル)形式とする。ただし、「記事」の原稿については、上記ファイル形式に加えJPEG形式でも構わない。
- カラー写真の印刷費用は著者の負担とする。ただし、「口絵」は無料。
- 折り込み図表は認めない。
- データ, 写真, プログラムリスト, 詳細な方法の記載などで、本文中に印刷しきれない分については、必要と認められる場合には、電子ファイルを付録資料として電子版のサーバで公開することができる。著者が付録資料の公開を希望する場合には、投稿の際にその旨編集長に相談すること。

## 7. 著作権

「化石」誌に掲載された論文の著作権(著作財産権:copyright)は、日本古生物学会に帰属する。